

■効果の見える河川事業  
徳島県 那賀川 床上浸水対策特別緊急事業

徳島県南部総合県民局  
県土整備部（那賀庁舎）

副部長 戸田 理人



那賀川は、徳島県南部に位置し、その源を剣山山系ジロウギユウに発し、徳島、高知両県の県境山地の東麓に沿って南下した後、東に流れながら各支川を合わせ、那賀川平野を経て紀伊水道に注ぐ、幹線流路延長125km、流域面積874km<sup>2</sup>の一級河川であります。

その流域は、阿南市をはじめとする2市3町からなり、古くからその気象的、地理的特性を活かした木材の生産、製材、木工といった木材産業と肥沃な土地と豊富な水を活かした農業を基幹産業として栄えてきましたが、近年では、河口域の辰巳工業団地を中心に化学製品や電子機器の企業進出もあり、今後の発展が期待されている地域であります。

一方、那賀川の上流域は、台風の常襲地帯である四国山地の南東斜面に位置するため、特に台風の接近通過時には集中的に大雨の降る傾向があり、たびたび日最大降水量の日本記録を塗り替えるような日本でも有数の多雨地帯であります。

特に、平成26年8月の台風11号による豪雨では、阿南市の古庄・水位観測所において、観測史上最大となる毎秒約9,500m<sup>3</sup>/sの流量を記録するとともに、那賀町の和食水位観測所においても昭和25年ジェーン台風規模洪水の水位52.9mを大きく上回る54.1mの水位を記録するなど、未曾有の大出水となり、和食・土佐地区をはじめ、流域の広い範囲に渡って甚大な浸水被害が発生しました。

そこで、県では平成26年8月の台風11号と同規模の出水に対し、和食・土佐地区における再度災害を防止するため、床上浸水が頻発している河川を対象として、集中的に河川整備を実施し、概ね5年間で再度災害防止対策を完成し、床上浸水を早期に解消する「床上浸水対策特別緊急事業」を平成27年度から新規に事業化しました。

平成28年6月からは用地交渉に着手しており、去る11月13日には、国土交通省や地元那賀町をはじめとする関係各位にご出席いただき、那賀川・床上浸水対策特別緊急事業起工式を執り行ったところであります。

今後とも、地元那賀町をはじめとする関係機関と連携しながら、早期に地域の皆様の安全・安心な生活環境が確保できるよう、平成31年度の堤防の完成に向け、事業進捗を加速して参りたいと考えております。



和食地区 完成イメージ図



■地域の安全・安心の実現へ

那賀町長 坂口 博文



那賀町は徳島県の南部に位置し、東は阿南市、西は高知県、南は海部郡、北は勝浦郡、神山町、美馬市、三好市に隣接しており、北西部には四国山地、南部には海部山脈などを配しており、標高1,000メートル以上の山々に囲まれ、地域の9割以上が森林の中山間地域です。町内には那賀川及び坂州木頭川が流れ、町の中央部付近で合流して西から東に貫流しております。

その那賀川においては、上流域でアユやアマゴを対象とする釣りが多いほか、豊かな自然を利用した水遊びやキャンプといった自然志向のレクリエーションに活用されたり、木頭杉一本乗り大会など、地域の風土に根付いた特色のある行事も行われており、古くから住民に親しまれてきました。

一方、流域は平成16年に日降雨量1,317mmの日本記録を観測するなど、県内でも最も降水量の多い地域であり、急流河川であることも相まって、過去から浸水被害が度々発生しており、近年では、平成26年の台風11号により流域で768戸におよぶ家屋の浸水被害が発生し、特に那賀町の和食・土佐地区においては、床上233戸、床下46戸の計279戸の甚大な浸水被害が発生しました。

そこで県に対し、浸水被害が再び発生することがないよう那賀川の治水対策を強く要望したところ、県において平成27年度から床上浸水対策特別緊急事業を新規に事業化し、浸水対策を進めていただくこととなりました。

これを受け、本町においても内水対策や円滑に用地買収が進むよう支障家屋の移転先となる宅地造成を行うなど、平成31年度の堤防の完成に向け、町と県が一体となって事業の進捗に努めており、昨年11月13日には起工式を執り行うことが出来ました。

今後とも、県や地元住民と協力しながら、和食・土佐地区の一日も早い浸水対策の完成に向けて様々な施策を推進し、地域の皆様の安全・安心の確保に努めて参りたいと考えております。



那賀川 和食・土佐地区の浸水状況



那賀川 床上浸水対策特別緊急事業 起工式